

法面崩壊を迅速施工で復旧 テラセル擁壁工法

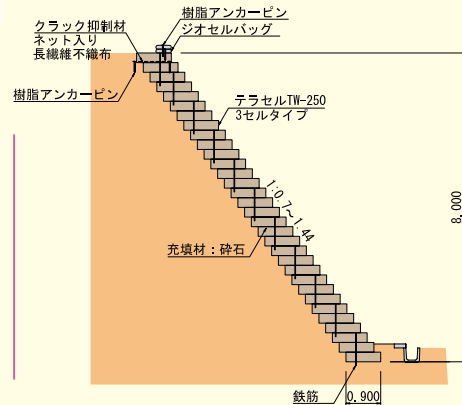
新名神高速道路は、三重県四日市市から兵庫県神戸市を結ぶ延長約150kmの高速自動車国道です。現在は滋賀県の大津ICから京都府の城陽ICまでの約25km区間の工事を残して供用が進んでおり、近畿圏の新たな交通網としての経済効果を発揮し始めています。

この起点である四日市JCTにほど近い桑名市内の高架下において、降雨による法面崩壊が発生。現場は高等学校の通学路にも近く高架のすぐ脇に駐輪場などの施設があることから早急な復旧が求められていました。

そこで採用されたのが岡三リビックが提案した「テラセル」による段積み擁壁です。テラセルはハニカム状に展開した帯状部材に現地発生土や砕石などの様々な中詰材を適用しこれを拘束することで安定した法面保護を実現します。コンクリートを



展開状態のテラセル



用いないため養生期間を必要とせず、狭い場所でも人力で容易に施工できる軽量部材とも相まって、災害復旧のような一刻も早い着手を求められる工事に好適です。

その材質は高強度ポリプロピレンのため耐塩害に優れ、法面先端まで振動コンパクターで転圧が可能のため、締固め不足による壁面変形の心配などありません。

中日本高速道路の管内ではこれまでも様々な形でテラセルが用いられており、安全な道路環境の維持に役立っています。



工事概要

施主：中日本高速道路株式会社
 工事名：新名神高速道路のり面補修工事(2.25KP)
 施工会社：中日本ハイウェイ・メンテナンス(株)
 一次下請：(株)サコス
 商品名：テラセル(3セル) 287m²
 H250mm × L2800mm × B900mm

お国自慢

足立市場

東北支店 若林太郎

私の出身地・東京都足立区についてご紹介いたします。足立区は荒川をはじめとした豊かな自然環境や西新井大師に代表される多くの名所旧跡に恵まれた区ですが、今回は私自身学生時代にアルバイト経験がある「足立市場」についてご紹介いたします。

天正年間(安土桃山時代)、川魚・青物・米穀を中心に始まったとされる足立市場。神田・駒込と並ぶ江戸三大青物市場の一つとして幕府の御用達となり、現在は都内で唯一の水産物専門の中央卸売市場として賑わいをみせています。

交通アクセスに優れ、松尾芭蕉「奥の細道」の矢立初めで有名な千住大橋のすぐ近く、隅田川と国道四号線(日光街道)に面しており、その立地を生かした拠点市場として、都内北部や千葉県北部、埼玉南部などへ水産物を供給しています。

普段はプロの仕入れの人々で賑わう市場ですが、一般のお客様に向けて市場を開放する「あだち市場の日」というものが奇数月の第二土曜日に開催されています。品揃えと質ともに抜群な市場の活気あふれる雰囲気を楽しむながらお買い物や海鮮ランチを楽しんでみてはいかがでしょうか。

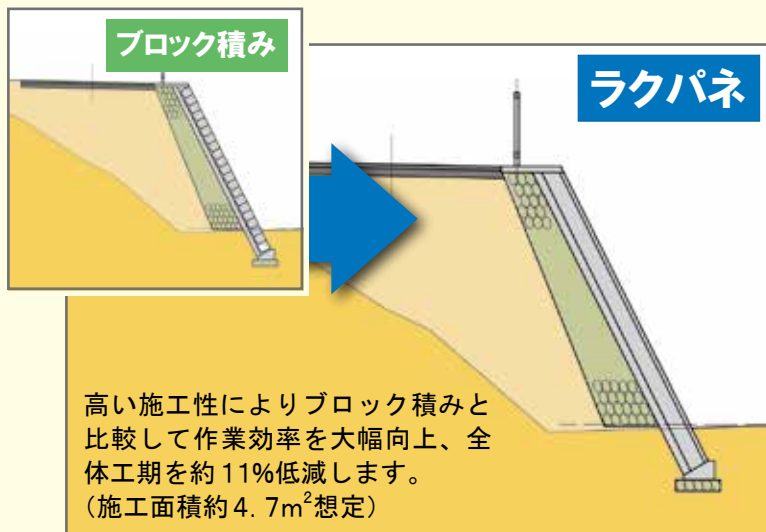
岡三リビック 商品群

道路・盛土 多数アンカー式補強土壁工法 トリグリッドEX パラリンク フラットパネル RRR工法 EDO-EPS工法
 ダイブラハウエル管 法面・防災 多機能フィルター ミニアンカーDO PDR工法 サビレス100
 維持・管理 ARISライナー工法 SWライナー工法 RCGインナーシールα工法 Tn-p工法 ローマットHDB
 鉄鋼建材 ライナープレート コルゲートパイプ 景観・環境 ロッキーステージ 斜面いりどり工法 フォトリックアート

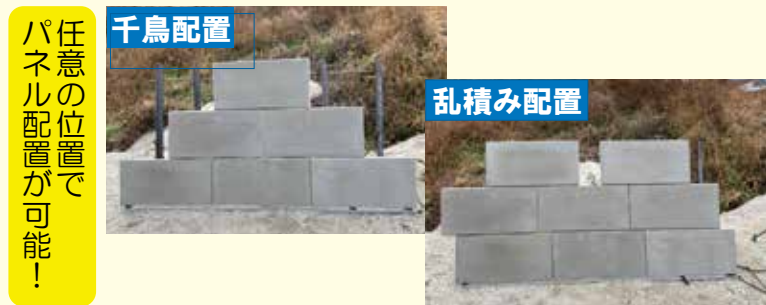
ブロック積みより簡単な 現場打ち擁壁用パネル

ラクパネ

- 2.5t/m²のコンクリート側圧に耐えるパネル強度
- 軽量性・重機不要の人力施工
(800×400×30mm 約20kg/枚)
- ガイドによる上下パネルの簡易な接合作業
- 型枠解体作業を排除し工期短縮に貢献
- 結合位置の自由度が高いため
傾斜カーブの追従や乱積み意匠が可能
- リングコネクターステンレスを採用
剥落への耐久性を確保
- 塩害対策など耐久性を考慮した製品を用意



パネル表面は、「美しい山河を守る災害復旧基本方針」(国土交通省水管理・国土保全局)で目安とされる輝度標準偏差11以上・明度6以下を満足しています。



徒然月記

記：編集T

世界の「ふんじやった」

子供がピアノやオルガンで遊ぶときに必ずと言っていいほど弾く「猫ふんじやった」。運指が簡単なため鍵盤楽器への入門曲として実は世界中で親しまれている。

「黒猫のダンス」「犬のポルカ」「アヒルの子達」「カッレツ」「サーカスソング」「カーリー・ヨソソ」：等々全国各地で猫だけでない様々な題名で呼ばれ、そのまま鍵盤曲であったり歌詞が付けられていたりする。

世界に広まっているこの曲の元はドイツの「ノミのワルツ」だとされているが、実は作曲家や曲の起源は全く不明で、なぜ3/4拍子じゃないのにワルツと呼ぶのかすら誰も知らないという。日本では一九五〇年代から「猫ふんじやった」のタイトルでレコードが出ていたが、六六年にNHK「みんなのうた」で放送したことが全国的に広まるきっかけだったようだ。

ただ、「猫ふんじやった」という題名や、改めて歌詞を知ると意外に残酷な内容なことには猫愛好家からの風当たりもあるらしく、「踏まれた猫の逆襲」などというアンサーソング的ピアノ曲まで作られている。願わくば毒を毒として楽しめる心で受け流し、絵本「ちびくろさんぼ」が焚書寸前になったような悲劇の轍を踏まないことを望みたい。